

「思いを知る」

～人的理解に注意 思い理解への飢饉～

イザヤ書 55:6～11

■ 言葉と思い

道端で物乞いをしている男性がいます。彼のそばには「私を憐れんで下さい。」とだけ書かれた板が置いてあります。彼は目が見えず仕事もできません。ですが、彼を見て寄付をする人はいませんでした。そんなところに一人の女性が通りかかり 板にそっと言葉を足しました。「みなさん今日はよい天気ですね。でも私には、この天気を見る事ができないのです。」すると、その日から寄付をする人がとても増えたのです。彼は目が見えません、なぜ増えたのかがわかりませんでした。彼に寄付をした人々は女性が足した言葉を読んで ようやく彼の状態を知りかわいそうに思ったのです。では、「言葉」は これほどに大事なのでしょうか？人は入ってくる言葉でしか心を感じる事が出来なくなってしまうました。「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」(ヨハ 1:1) 言葉によって神様は物事を創造しました。そして人間だけが「言葉」を使いコミュニケーションを図っています。ですが今、私たちは言葉によって全ての物事を判断しています。そして言葉のトーンによって相手の心まで判断しようとしています。なぜでしょうか？全ての動物たちは「心」と「心」で繋がっています。初め神様が人間を作った時、人は神様と「心」で繋がっていました。そこには目に見える形ではなく人が共にいることで思いやり理解するようになっていきました。でも人間は「言葉」により「心」を読めなくなりました。「愛している」の言葉がないと愛されているのがわかりません。「ごめんなさい」の言葉がないと許すことができません。もちろん大切な言葉ですが、本当にその言葉がないとわからなのでしょうか？言葉は思いや心よりも先に進むようになりました。先日、ある一人の男性議員が「子どもは貧しい方が心が育つ」と子ども貧困対策の協議の場で発言しました。豊かな現代にいて心の飢餓の時代の子どもたちに実際に物質的ハングリーになることがどれほど大切なことかは昔の日本を経験した人たちなら容易に理解できます。ですが世界の貧しい子どもたちが食べることができない事をいつも思いやる人がどれほどいるのでしょうか、それを見て遠い国の出来事としか受け取れません。一部の言葉だけを取り上げて 背後の思いは無視して批判する社会になってしまいました。大変に悲しいことです。私たちは目や耳から入る情報だけで判断しようとし、感情のままに伝え削除のできない LINE やスタンプでは何も伝わりません。たしかに何日もかけて考えて思いを伝える昔の手書きの手紙のような活字は大切ですが言葉だけではなく目と目を合わせ心や思いを合わせ全てのものを使って相手を理解なくはいけません。神様は「言葉」を言葉だけで終わらせず「思い」として成し遂げられました。神様は「人に志を立てたせ事を実現させる。」と言いました。今、学生たちが志もなく学校に行こうとします、神様は今が良ければ良いという近視眼的なことをしません。どんな事があっても先に結ぶ実が良くなるように先を見て思いを持って行動されます。確かに学校に行くことで知的水準は高くなりますが志を立て、思いがなければ成功はないのです。神様は思いで成し遂げました。その中には痛みや悲しみもあるでしょう。ですが、私たちの「言葉」が変わらない限り思いは成し遂げられません。言葉は相手に語るものではなく自分に語るべきものです。あなたが目先の思いではなく本当の思いに目を向けるためです。「なぜ私は怒っているの？」「なぜ自分は落ち込んでいるの？」自分の心を見てみて下さい。私たちが過去に投げかけられた古い言葉には脳がかたくなになる「苦しい言葉」があります。前に悪い経験

があれば、その時の言葉で同じ様に理解してしまします。言葉によって傷つきやすい人は思いに目を向けず苦しい経験の言葉で生きている証拠。「あんな事言われた、こんな事言われた、あの時のあの人の言葉が許せない。」と言っているうちは語られる言葉であなたは揺れ動く葦のように右往左往させられなければなりません。ソロモン王は苦しみと苦みだけで終わらず、待ち望みました。私たちは苦みや悲しみがある時に、幸せだったことを全て忘れてしまします。苦しみや悲しみの時こそ神様を感じて待ち望んでください。そんな時こそ神様は幸せになる道を外れようとしているあなたに何かを伝えたいのです。(哀歌 3:17～21)

■ ①大きな目線 (すべてで理解する)

目や耳だけで聞くのではなく心で感じてください。あなたの目線だけで見ず相手を見てください。神の思いはあなたの思いより はるかに大きくあなたが天国に帰るまですべての計画をお持ちです。そして子々孫々までも、一時の行動までも見えています。私たち大人は子どもたちが正しく歩めるように経験を阻害するようなことをしてはいけません。大人の近視眼で その子が通らないといけなところを狭めてはいけません。神様は学びの中で自分で切り拓くことを教えます。子どもから学びを取らなように大人は立って木の上から手を出さずに見ていてください。そして駄目だった時にはその事だけを教えてあげて下さい。大きな目線です。

■ ②自分の思いに死ぬ!! (人的思いはとても危険)

あなたが思いついた事は何回捨てますか？近視眼で思いついた事は間違っている事が多いのです。まず三回捨てて待ってみましょう。自らの思いを捨て神様の前に冷静になって聞いてみましょう。すぐに思いついたことはすぐに忘れますが、じっくり考えたことは忘れることはありません。もし自分に一度死んだあなたが生きて活躍しそうなら止めなければいけません。(コロサイ 3:1～4) イエス様が宮清めをした場面、またニコデモに話した時もイエス様の思いは相手には伝わりませんでした。あなたの思いで会話は成立しない事が多いのです。

■ ③思い合う (キリストの愛 背景の理解)

相手がなぜ悩んでいるのか、なぜつらい態度をとったのか、背景を理解すれば私たちは揉めなくなります。あなたも自分を責めることがありますよね。「私はなぜこうなのだろう。。。。」と言っているだけでは変わらないのです。知識や変な理解ではなく、大切なのはそれを探ることで間違ったプロセスがあることを知ることなのです。あなたは相手の痛みが理解できますか？(ヘブル 13:2～3)「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」教会はルールや儀式によって物事を成すところではありません。痛みを負い合い、共に喜び合うところです。離れていても同じです。そうすれば自らの心も理解できるようになるのです。

まとめ

今週は受難週です。私たちは神様を喜んで迎え入れています、この一週間が もう一度十字架にかける歩みにならないように、あなたの隣人の痛みを負ってイエス様のところに持っていくことがあなたの仕事なのです。お祈りします。

(要約者:西崎 真由美)

(3月20日)